

英語科目についての概要

英語の選択科目について（選択科目：全年次）

英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

英語 A I/A II（1年次）では、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養に加え、英作文とプレゼンテーション技能の訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。英語 A では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

英語 B I/B II（1年次）は、英語 A I/A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に 4 技能を訓練する。読解力については、CEFR B2 を参照した読解レベル（「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。」）を目標としている。

英語 C I/C II（2年次）は、英語 A I/A II や B I/B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。

英語 D I/D II（2年次）は、ドイツ語Ⅲ/Ⅳ、中国語Ⅲ/Ⅳ、フランス語Ⅲ/Ⅳ、韓国語Ⅲ/Ⅳを合わせた選択科目群から選択する科目で、総合英語 A I/A II、B I/B II、C I/C II の学習内容を補完する。世界の諸問題を題材に批判的思考力を身につけるとともに、自分の意見を発信できる英語運用能力を涵養する。なお、1年次に本学で一斉受験した TOEFL ITP スコアの高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。英語 D では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

*CEFR : Common European Framework of Reference for Languages 欧州共通言語参照枠

2. 履修上の注意

- 1) 出席率が3分の2以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第11条2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、再履修については事前に必ず担当教員に相談すること。
- 3) 編入生の場合も、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども評価要素となる。
- 5) TOEFL ITP（レベル1）スコア（550点以上）、TOEFL IBT（80点以上）、TOEIC（865点以上）、英検1級で、必修英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。

1. 目的および目標

英語 A、B、C、D と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなる学習の機会を提供することを主眼としている。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

選択英語 I

選択英語 II

2. 履修上の注意

- 1) この科目は学期内あるいは学期外に適宜開講されるので、掲示に従って履修すること。
- 2) 履修希望者が多い場合、人数制限を行う。
- 3) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、この科目をもって行なう。

その他

大学院においても英語（ラクストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解 I、II（虹林）を開講している。こちらの聴講（履修は不可）を希望する学生は、担当教員に相談すること。

英語 A I English A I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1 年次

学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long・Mason Lampert・James Hicks・
Kevin Weir・Michael Berg・Mike Mackay・
渡邊 浩明・福永 淳

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

ディスカッション、作文、および正式なプレゼンテーションに必要な基本的技能を身につける。

4. 授業計画

1. Self-introductions.
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 A II English A II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1 年次

学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long・Mason Lampert・James Hicks・
Kevin Weir・Michael Berg・Mike Mackay・
渡邊 浩明・福永 淳

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

ディスカッション、作文、および正式なプレゼンテーションに必要な基本的技能を身につける。

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
3. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
4. 新聞・雑誌の英語 I
5. 新聞・雑誌の英語 II
6. 新聞・雑誌の英語 III
7. 新聞・雑誌の英語 IV
8. 新聞・雑誌の英語 V
9. 中間テスト
10. エッセイの英語 I
11. エッセイの英語 II
12. エッセイの英語 III
13. プレゼンテーション I
14. プレゼンテーション II
15. 学期末テスト
16. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、小レポート、中間テスト、学期末テストを総合的に判断して評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書を持参すること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・3分の2以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・事前に指示された課題を行った上で出席すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1. The Slippery Case of the Missing Butter
3. "
4. 発表
5. Topic 5. Success Story Starts with a Goat (I)
6. Topic 6. Success Story Starts with a Goat (II)
7. "
8. 発表
9. Topic 10. DNA Testing Is Unsettling Paternity Law
10. "
11. 発表
12. Topic 21 The Basques
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。
- ・加えて、レポート提出日には、教科書に関連する英語の記事を調査し、指示されたやり方でまとめておくこと。
- ・発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：

1. 九頭見一士『Snapshots of Life Today』（朝日出版社）830/K-8
2. Humorous Homestay Stories（南雲堂）ISBN: 9784523175544

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

英語 B I English B I

対象学科（コース）：電気電子・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Crops for Food or Fuel?
3. Oceans Awash in Toxic Plastic
4. Global-warming Super Typhoons
5. Slingshot: Water Purification Innovation
6. Engineering Earth is Possible
7. Engineering Earth is Possible
8. Review
9. Making Stem Cell Therapy into Reality
10. Learning from the 2011 Tohoku Tsunami
11. Gigantic Oil Spills and Clean-ups
12. Public Construction Projects Under Review
13. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
14. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834

9. オフィスアワー

木曜日 4限目（総合教育棟 4階 414）
 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
 総合システム工学科・マテリアル工学科
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction / Annotated Art: Netherlandish Proverbs
2. Symmetry Breaking (1)
3. Symmetry Breaking (2)
4. Symmetry Breaking (3)
5. A Brief Look at Relativity (1)
6. A Brief Look at Relativity (2)
7. A Brief Look at Relativity (3)
8. Review Test 1
9. Reading National Geographic (1)
10. Reading National Geographic (2)
11. Evolution Goes Digital (1)
12. Evolution Goes Digital (2)
13. The Archaeology of Toothbrushes (1)
14. The Archaeology of Toothbrushes (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『The Universe of English II』（東京大学出版会）837.7/T-1/2

参考書：新版研究社英和中辞典（第7版）（辞書を持たない人に）833/K-31/7（研究社）

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6（英英辞書に関心がある人に）

9. オフィスアワー

水曜日（17：00～18：00）（総合教育棟 3階：S313）

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）
学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学技術や環境問題、自然などの様々な科学に関する題材に英語で触れることで、科学論文の読解能力の基礎を培うとともに、国際社会で活躍するための教養を育むことを目標とする。また、与えられた英文の構造、組み立て方を学ぶことで、より難易度の高い英文読解の礎を築くとともに、自らの興味のある題材を英語を用いて発信する能力を育成する。

2. キーワード

科学技術、環境問題

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Welcome to My Bower
3. Memory
4. Exotic Species
5. Smells Like Trouble
6. Seven Sisters
7. Review Activity 1
8. Danger-Detecting Animals
9. Denizens of Antarctica
10. Sky Watchers
11. One-celled Wonder
12. Coral Reef
13. Moon Rocks
14. Wind Power
15. Review Activity 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読み、指示した課題をやってもらうこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Square（成美堂）ISBN: 9784791910830

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前に掲示
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B I English B I

対象学科（コース）：
学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 池田 景子

1. 概要

人間の脳をテーマに扱った Sally P. Springer & Georg Deutsch による「Left Brain, Right Brain」に挑戦する。本書は当該テーマに関する専門知識のない者にも読めるように書かれているが、人間の脳が持つ機能から脳と言語活動への関連性まで、幅広く網羅しており、大学生にふさわしい知的題材である。また、編集された英文ではなく、原書に敢えて挑戦することで、大学院で将来必要になる、論文の書き方や読み方の基礎を学び取っていく。また、TOEFL 対策としてリスニングの練習をするため、小テストを毎回行う。

2. キーワード

脳、言語、精読

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
3. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
4. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
5. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
6. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
7. 中間テスト
8. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
9. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
10. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
11. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
12. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
13. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
14. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、リスニング小テストを10パーセント以上含める。上記の総合評価が60点以上になった者を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- ・予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・辞書を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日以内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないので、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ・ハンドアウトを配布する。
- ・参考書：Left Brain, Right Brain: Perspective from Cognitive Neuroscience (Series of Books in Psychology) (第5版) ISBN-10: 0716731118/ISBN-13: 978-0716731115

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 B I English B I

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義は、スタンフォード大学で行われた集中講義録の読解を通し、総合的な英語読解能力を高めることのみならず、枠組みにとられない柔軟な発想力を身につけることを目的としている。毎回の授業ではそれぞれ担当者を決め、授業内容に関連した英語でのプレゼンテーションを行ってもらいが、その際、自らの論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。また、毎回の授業では、語彙力強化の為、テキストに即した単語テストを行う。

2. キーワード

リーディング、プレゼンテーション、論理的思考力、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Buy One, Get Two Free -1
3. Buy One, Get Two Free -2
4. Buy One, Get Two Free-3
5. The Upside-Down Circus -1
6. The Upside-Down Circus -2
7. The Upside-Down Circus -3
8. Bikini or Die -1
9. Bikini or Die -2
10. Bikini or Die -3
11. Please Take Out Your Wallets -1
12. Please Take Out Your Wallets -2
13. Please Take Out Your Wallets -3
14. The Secret Sauce of Silicon Valley -1
15. The Secret Sauce of Silicon Valley -2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

What I Wish I Knew When I Was 20 (Tina Seelig) ISBN: 978-0-06-204741-0

9. オフィスアワー

メールにて対応します。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・

電気電子工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英文理解、文献調査、発表の仕方、発表の聞き方、質問の仕方等を学ぶ。ニュース英語の概要を理解する。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション
2. 発表と評価
3. 発表と評価
4. 発表と評価
5. 発表と評価
6. 発表と評価
7. 発表と評価
8. 中間テスト
9. 発表と評価
10. 発表と評価
11. 発表と評価
12. 発表と評価
13. 発表と評価
14. 発表と評価
15. 学期末テスト
16. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各自オピニオンシートを作成したうえで出席すること。
- ・発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。
- ・発表担当箇所に関する疑問は、オフィスアワーなどを利用して事前に解決しておく。

8. 教科書・参考書

- ・辞書
- ・TOEFL テスト ITP リーディング完全攻略（アルク）ISBN: 978-4-7574-1021-3

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）
学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 2. By Bike round Australia (I)
3. Topic 3. By Bike round Australia (II)
4. "
5. 発表
6. Topic 8. Change of Heart
7. "
8. 発表
9. Topic 11. From The Daydreamer
10. "
- 11.
12. Topic 14. Knowing Where You Stand
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ 毎回辞書を持参すること。
- ・ 図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。加えて、レポート提出日には、与えられたテーマについて、自分の意見を英語にまとめておくこと。発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：

1. Snapshots of Life Today (朝日出版社) 830/K-8
2. Topics and Tactics for the Toefl Test (南雲堂) 830.7/K-141

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 B II English B II

対象学科（コース）：電気電子・マテリアル（人間科学科目）
学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。また TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題、

3. 到達目標

- ・ さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・ 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. A Bright Future for LED Lights
3. Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
4. Civil Engineers Test New Concrete
5. Solar-powered Planes and Yachts
6. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
7. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
8. Review
9. Electric Cars
10. Preparing for the Trip to Mars
11. 3D TV Gadget
12. Controlling Cadget with Your Own Thoughts
13. Gesture-based Computing
14. Gesture-based Computing
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。なお評価に TOEFL に関連した内容を 10%以上含める。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：1.Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834

教科書：2.Boost Your English 2 --Practice for TOEFL UTP--- (Seibido) 830.7/S-95/2

9. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. How Strange Is the Universe? (1)
2. How Strange Is the Universe? (2)
3. What Is Sleep For? (1)
4. What Is Sleep For? (2)
5. What is Sleep For? (3)
6. What Science Can and Cannot Predict (1)
7. What Science Can and Cannot Predict (2)
8. Review Test 1
9. Living in a Packaged World (1)
10. Living in a Packaged World (2)
11. Living in a Packaged World (3)
12. Consumption as a Way of Life (1)
13. Consumption as a Way of Life (2)
14. Consumption as a Way of Life (3)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Universe of English II (東京大学出版会) 837.7/T-1

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第7版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6 (英英辞書に関心がある人に)

9. オフィスアワー

水曜日(17:00~18:00)(総合教育棟3階:S313)

英語 B II English B II

対象学科(コース)：機械知能・電気電子・
応用化学(人間科学科目)

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

人間が人間である限り、時代を超えていつまでも話題になり、議論を呼び、深く考えさせるような題材に英語で触れることで、読解能力の基礎を培うとともに教養を深めることを目標とする。また、与えられた英文の構造、組み立て方を学ぶことで、自らの興味のある題材を英語を用いて発信する能力を育成する。

2. キーワード

社会問題、環境問題

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Cruelty of Strangers
3. Fertility Now
4. Crime and Punishment
5. Education
6. The Disabled
7. Review Activity 1
8. Strange Brains
9. Marriage
10. Gender
11. Globalization
12. Cults
13. Immigrants
14. Gambling
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、小テストを含む)と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用(携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読み、指示した課題をやってもらうこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Burning Issues(松柏社) ISBN: 9784881986950

TOEFL 教材は別途指示する。

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前に掲示
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B II English B II

対象学科 (コース): 建設社会工学科

学年: 1 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 池田 景子

1. 概要

前期に引き続き、人間の脳をテーマに扱った Sally P. Springer & Georg Deutsch による「Left Brain, Right Brain」に挑戦する。本書は当該テーマに関する専門知識のない者にも読めるように書かれているが、人間の脳が持つ機能から脳と言語活動への関連性まで、幅広く網羅しており、大学生にふさわしい知的題材である。また、編集された英文ではなく、原書に敢えて挑戦することで、大学院で将来必要になる、論文の書き方や読み方の基礎を学び取っていく。また、TOEFL 対策としてリスニングの練習をするため、小テストを毎回行う。

2. キーワード

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
3. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
4. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
5. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
6. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
7. 中間テスト
8. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
9. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
10. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
11. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
12. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
13. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
14. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、リスニング小テストを 10 パーセント以上含める。

上記の総合評価が 60 点以上になった者を合格とする。

TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- 予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 辞書を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないの、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ハンドアウトを配布する。
- 参考書: Left Brain, Right Brain: Perspective from Cognitive Neuroscience (Series of Books in Psychology) (第 5 版) ISBN-10: 0716731118 / ISBN-13: 978-0716731115
- Mastering the TOEFL iBT: Reading and Listening (研究社) ISBN: 978-4-327-42181-6

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 B II English B II

対象学科 (コース): 建設社会工学科

学年: 1 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

前期に引き続き、本講義ではスタンダード大学集中講義録をテキストとして用い、英語読解能力を高めることに加え、創造的な発想力の強化を図ることを目的とする。前期同様、毎回の授業において担当者を決め、テキストの内容に即したプレゼンテーションを行ってもらおう。さらには、単語テストも毎回実施する。TOEFL ITP 対策も同時に行っていく。

2. キーワード

リーディング、プレゼンテーション、論理的思考力、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. No Way...Engineering Is for Girls -1
3. No Way...Engineering Is for Girls -2
4. Turn Lemonade into Helicopters -1
5. Turn Lemonade into Helicopters -2
6. Turn Lemonade into Helicopters -3
7. Paint the Target around the Arrow -1
8. Paint the Target around the Arrow -2
9. Paint the Target around the Arrow -3
10. Will This Be on the Exam? -1
11. Will This Be on the Exam? -2
12. Will This Be on the Exam? -3
13. Experimental Artifacts -1
14. Experimental Artifacts -2
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- 十分な予習をすること。
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

What I Wish I Knew When I Was 20 (Tina Seelig) ISBN: 978-0-06-204741-0

TOEFL ITP テスト 本番模試 [改訂版] (旺文社) ISBN: 978-4-01-094023-5

9. オフィスアワー

メールにて対応します。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Report
3. Report
4. Report
5. Speech
6. Essay
7. Essay
8. Speech
9. Review
10. Review
11. Project
12. Project
13. Critiques
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・3分の2以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- ・自主学习として、図書館のJapan Timesや、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuriなどの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・事前に指示された課題を行った上で出席すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chap 1 Herbivorous Males
3. Chap 3 Uniformity
4. Chap 4 Universities in Japan
5. Chap 5 English as a Lingua Franca
6. Chap 7 Immigrants Needed
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

Good-bye, Galapagos-Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ ラーニング) ISBN 978-4-86312-216-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Four-legged fish
3. Reproduction without males
4. Deeper and deeper
5. An explosive world heritage
6. Fierce fungi
7. Extreme weather
8. Review
9. Finding Nessie
10. Crop circles
11. Smart roots
12. Insecticide resistance
13. Unwelcome guests
14. Gallileo's inclined plane
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。（私語、内職、携帯電話等は厳禁。）
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Updates (Seibido) ISBN: 9784791947836

9. オフィスアワー

木曜日4限目（総合教育棟4階414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とスピーチを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Daisy Miller についての全体説明
2. Daisy Miller (1)
3. Daisy Miller (2)
4. Daisy Miller (3)
5. Daisy Miller (4)
6. Daisy Miller (5)
7. Review Test 1
8. Daisy Miller (6)
9. Daisy Miller (7)
10. Daisy Miller (8)
11. Daisy Miller (9)
12. Daisy Miller (10)
13. スピーチ (1)
14. スピーチ (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『Daisy Miller』（研究社）ISBN: 9784327012694

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟3階：S313）

英語 C I English C I

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学技術、環境問題など、身近な問題を扱う英文を的確に読む力を培う。特に、英文構造を、日本語との対比研究や他の認知機能との相互作用の中でとらえることで、英文法のより根本的な理解を目指す。また、簡単な英語を用いて情報発信する訓練をする。

2. キーワード

科学技術、環境問題、プレゼンテーション

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Psychology
3. Women
4. Young People
5. Food
6. Presentation
7. Presentation
8. Presentation
9. Space
10. Language
11. Family
12. Work
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加 (課題、発表、小テストを含む) と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用 (携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- ・ 毎回辞書を持参すること。
- ・ 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

・ 各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや英字新聞、書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書: A World of Ideas (南雲堂) ISBN: 9784523177180

9. オフィスアワー

- ・ オフィスアワー: 研究室前に掲示
- ・ 研究室: 総合教育棟 412
- ・ 連絡先: maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にした DVD、CD を活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、「英語耳」を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解、外国から見た日本の特徴を知る比較文化的視野を持つこと。

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Waste Not, Want Not
3. Unit 2 Dancing Toward Closer Friendship
4. Unit 3 Creature Comforts
5. Unit 4 White-hat Hackers Wanted
6. Unit 5 Rescue Bike
7. Unit 6 Crash Course Boom
8. Unit 7 Big Returns
9. Unit 8 Sweet Acts of Kindness
10. Unit 10 Cafes Beyond Coffee
11. Unit 11 Indoor Navigation
12. Unit 12 Reaching New Heights
13. Unit 14 Fishing for a Market
14. Unit 15 Stressing the Rural Life
15. 関連情報を使ったまとめ

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。(授業内活動に関して初回の授業で配点を詳しく説明するので、必ず出席すること)

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・ 毎回辞書を持参すること。(携帯電話の辞書機能は使用禁止)
- ・ 授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・ 教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・ 予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしておくこと。
- ・ 毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- ・ 復習方法としては「音読」、「付属 DVD を使ったシャドーイング」を勧める。最低でもスクリプトを 3 回音読し、DVD を視聴すること。
- ・ 本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語で日本の社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書: What's on Japan 10 (金星堂) ISBN: 9784764740136

9. オフィスアワー

授業時間前後

(連絡方法はオリエンテーションで伝えます)

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事を読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡ししとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 1 Scientists Akasaki, Amano, Nakamura win Nobel Prize in Physics
3. Chapter 1 Scientists (2)
4. Chapter 2 A name for Britain's new princess: Charlotte Elizabeth Diana (1)
5. Chapter 2 A name (2)
6. Chapter 3 Stem cell transplant gives hope to patients suffering from eye (1)
7. Chapter 3 Stem cell (2)
8. Chapter 4 Renowned actor Ken Takakura dies at 83 (1)
9. Chapter 4 Renowned actor (2)
10. Chapter 5 Japan successfully launches Hayabusa2 space probe (1)
11. Chapter 5 Japan (2)
12. Chapter 6 Scots reject independence in historic vote (1)
13. Chapter 6 Scots (2)
14. Chapter 7 "Asatte-kun" author recalls 40-year run of comic in the Mainichi Shimbun
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- ・各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- ・小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：『News Gallery 2016』（Kaibunsha Publications）
ISBN: 978-4-87571-727-0 C1382

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。メールアドレス：
teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

この授業では「生物環境」、「自然資源」、「医療」、「生活様式」に関する内容を盛り込んだ科学的な読み物を取り上げて、現代社会において問題視されている話題に目を向け、興味、関心を持つことを目標とする。

2. キーワード

日常的基礎知識、基本的文法力、読解力、リスニング力

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Unit 1. Four-Legged Fish
3. Unit 2. Reproduction Without Males
4. Unit 3. Deeper and Deeper
5. Unit 4. An Explosive World Heritage
6. Unit 5. Fierce Fungi
7. Unit 6. Extreme Weather
8. Unit 7. Smart Roots
9. Unit 8. Galileo's inclined Plane
10. Unit 9. The G Factor
11. Unit 10. A trip to the Land of Nod
12. Unit 11. Lab-Grown Organs
13. Unit 12. Looking for New Earths
14. Unit 13. Carbon Capture and Storage
15. Unit 14. 試験
16. Unit 15. 試験の解説等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習：前回の本文の内容をまとめておき、次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書：『Science Updates』（SEIBIDO）ISBN：
9784791947836

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 池田 景子

1. 概要

Arthur Conan Doyle の Holmes シリーズのひとつ“The Speckled Band”を読む。書かれている英語の構文を理解して、あらすじを追うだけに終わらず、小説特有の表現（比喩、アイロニーなど）にも注目することで、作品に対する理解を深め、異文化理解の一端を極めていく。

2. キーワード

異文化理解、読解、文学

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション (Doyle と Holmes について概説)
2. “The Speckled Band” (1)
3. “The Speckled Band” (2)
4. “The Speckled Band” (3)
5. “The Speckled Band” (4)
6. “The Speckled Band” (5)
7. 中間テスト
8. “The Speckled Band” (6)
9. “The Speckled Band” (7)
10. “The Speckled Band” (8)
11. “The Speckled Band” (9)
12. “The Speckled Band” (10)
13. “The Speckled Band” (11)
14. “The Speckled Band” (12)
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、毎回行う小テストを10パーセント以上含める。

上記の総合評価が60点以上になった者を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- ・予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・辞書を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないの、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ・ハンドアウトを配布する。
- ・参考書1（原書）：The Complete Sherlock Holmes：ISBN: 978-0-553-328257
- ・参考書2（日本語注釈つき）：The Adventures of Sherlock Holmes（英光社）ISBN: 978-4-87097-006-9

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 河野 世莉奈

1. 概要

本講義では、大統領選、人種問題、法律問題や移民問題などの主にアメリカにおける問題をテーマにした英文を読み解くことで、読解力を高めると同時に、現代社会における問題に意識的になり、様々な問題を英語で考えられるようになることを目的とする。1回の授業につき1つのチャプターを読む。受講者には、各チャプターのテーマに沿ったプレゼンテーションを英語で行ってもらう予定である。プレゼンテーションを通して、テーマに対する意識を高め、自己表現力と他人の考えを取り入れつつ視野を広げる力を身につけてほしい。毎回の授業では、語彙力チェックのために、単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The First African-American President
3. From an Eloquent Orator to a Practitioner
4. Struggles for Freedom and Self-respect
5. Prospects for the Automobile Industry
6. An Encounter with Destiny
7. The Statue of Liberty
8. Keys to Success
9. Transformation in New York
10. A Surprising Exhibition in front of the White House
11. Lawsuits and Self-justification
12. Legitimate Self-defense or Excessive Self-defense
13. Too Much is as Bad as Too Little
14. From Japan's Food Culture to Zen Buddhism
15. The United States Composed of Immigrants
16. 期末試験

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度30%、プレゼンテーション20%、小テスト10%、期末テスト40%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・予習：毎回の授業で次回の予習範囲を指示するので、しっかり準備をしてきてください。特に不明な単語は調べておくこと。単語テストにも備えてください。
- ・復習：間違えた問題を中心に、授業で学習したことを再確認する時間をとるようにしてください。
- ・プレゼンテーション：プレゼンテーション担当の学生は、スムーズに行えるように、原稿をしっかり準備すること。必要であれば、自分の意見やテーマに沿った写真などを載せたレジュメを配布してもよい。

8. 教科書・参考書

教科書：Japan and U.S. Relations for a Better Future 連動するアメリカと日本の社会（松柏社）ISBN: 9784881986387

9. オフィスアワー

質問等は、講義終了後あるいは、メールで受け付けます。
E-mail: serinako29@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

英語で児童文学を精読することで、読解力や思考力を養成しつつ、テキストを読んだ後に自分の感想や意見を英語で相手に伝える自己表現力を身に付けることを目標とする。各チャプター読後は、英語でサマリーを提出してもらうことで、要約し、自分の言葉で言い換えて英語で書くライティング能力の向上を図る。また、テキストでは文字化されない「行間」を読み取る感性を培うと同時に、物語ならではの英語のリズムやテンポ、ユーモアに触れ、楽しみながら英語と児童文学の世界を吸収することを目指す。

2. キーワード

リーディングスキル、理論的思考力、プレゼンテーション、異文化理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Karlson on the Roof
3. Karlson Builds a Tower
4. Karlson Pitches a Tent
5. Karlson Lays a Bet
6. Karlson Has a Lark
7. Karlson Plays Spook
8. Karlson Uses Magic
9. Karlson Attends a Birthday Party
10. English Presentation (1)
11. English Presentation (2)
12. English Presentation (3)
13. English Presentation (4)
14. English Presentation (5)
15. Review *Karlson on the Roof*

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、プレゼンテーション 10%、確認テスト・課題 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で60%以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のあるテキストの該当箇所を事前に読み、内容を把握しておくこと。授業後に提示する課題を次の授業時にきちんと提出すること。また授業のなかでペアになり互いに授業で読んだ箇所について内容確認の問題を出し合う活動を取り入れるので、毎回3つほど英語で質問を考えてくること。

8. 教科書・参考書

教科書：『Karlson on the Roof』(Oxford UP, 2008) ISBN: 978-0192727725

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
e-mail: kyoko.gyan@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test
16. Explanation

5. 評価の方法・基準

Class attendance (20%)、Class participation (20%)、Final test (60%)。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

今回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：『The UK & the USA』(南雲堂) 830/O-10

9. オフィスアワー

授業時間 15分前後 iida0818@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

AFP World Academic Archive のニュース映像と合わせて、世界中で起こる現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識をもち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションを行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション.
2. Lesson 4. Climate Change.
3. Lesson 5. Food Safety.
4. Lesson 6. Alternative Energy.
5. Lesson 7. Women and Education.
6. Lesson 9. Wildlife and Development.
7. Lesson 12. The Berlin Wall.
8. Lesson 14. Luxurious Items.
9. Lesson 15. Immigration Policy.
10. Lesson 16. Future Technology.
11. Review
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ヴェニスの商人』
—名場面より
13. 『ヴェニスの商人』の DVD 鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2 回目から 10 回目までは各 Lesson の予習をしてください。3 回目から 11 回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしてください。12 回目は『ヴェニスの商人』の予習をしてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：『AFP World News Report 3』（2016 年度版）成美堂 ISBN978-4-7919-4793-5 C1082

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義は、小説・詩・伝記・エッセイを始めとする英語で書かれた良質な「文学作品」に触れることで、総合的な英語読解能力を身につけると同時に、文章を読み解く力を養うことを目的としている。毎回の授業ではそれぞれ担当を決め、「文学」に関する英語でのプレゼンテーションを行ってもらうことを通し、自らの論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為、授業内容に即した単語テストを行う。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Language of Humor
3. George Bernard Shaw, Pygmalion
4. Japanese Stories in Translation: Kenji and Ryunosuke
5. Suzanne Vega, “Luca”
6. Two Autobiographies: Martin Luther King and Ellen Glasgow
7. Graham Green, A Sort of Life
8. Raymond Carver の短篇小説
9. Haiku and Japanese Poems
10. Four Types of Poetry
11. Tennessee Williams, A Streetcar Named Desire
12. Benjamin Franklin, “Thirteen Virtues” and “Poor Richard’s Maxims”
13. Tim O’Brien, “Ambush”
14. Lori Peikoff, “Table for Two”
15. Charles Dickens, *Great Expectations*

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：American Dynamics（金星堂） ISBN: 9784764739444

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

『Realise Britain』(Kinseido) ISBN: 978-4-7647-3982-6

9. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Overview of class, video homework
2. Seminar: Video homework/Chapter 1 Food
3. Seminar: Video homework & Chapter 1/Chapter 2 Urban Problems
4. Seminar: Video homework & Chapter 2/Chapter 3 Culture
5. Seminar: Video homework & Chapter 3/Chapter 4 Environment
6. Seminar: Video homework & Chapter 4/Chapter 5 Work
7. Seminar: Video homework & Chapter 5/Chapter 6 Health
8. Seminar: Video homework & Chapter 6/Chapter 7 Family
9. Seminar: Video homework & Chapter 7/Chapter 8 Money/Financial Problems
10. Seminar: Video homework & Chapter 8/Chapter 9 Gender Issues
11. Seminar: Video homework & Chapter 9/Chapter 10 Personal Issues
12. Seminar: Video homework & Chapter 10/Chapter 11 Space
13. Seminar: Video homework & Chapter 11/Chapter 12 Social Media
14. Seminar: Video homework & Chapter 12/Chapter 13 Global Militarization
15. Exam
16. Seminar: Video homework & Chapter 13/Review

5. 評価の方法・基準

Weekly Seminar Reports 40%, Chapter Homework 40%, Tests 20%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Watch the Youtube videos (class homework) that relate to each theme and write out important questions and comments to talk about in class. Also, read ahead in the next chapter so as to familiarize yourself with the tasks and vocabulary.

8. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Third Edition) (Perceptia Press) ISBN: 9781411680692

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00
Tuesday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00
long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル、作文

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Report (1)
3. Report (2)
4. Report (3)
5. Speech (1)
6. Essay (1)
7. Essay (2)
8. Speech (2)
9. Review (1)
10. Review (2)
11. Project (1)
12. Project (2)
13. Critiques (1)
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・3 分の 2 以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- ・自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・事前に指示された課題を行った上で出席すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chap 8 Manga
3. Chap 9 Lack of Entrepreneurs
4. Chap 10 Distinctive Kansai
5. Chap 12 Japanese Quality Food
6. Chap 13 Craze Culture
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト 予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

Good-bye, Galapagos-Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ ラーニング) ISBN: 978-4-86312-216-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Thw Washington Cherry Trees
3. A Modern Day Japanese Knight
4. Mona Lisa---A Mysterious Painting
5. Space Shuttle Challenger
6. Honesty Wins
7. The Family Bridge
8. Dr.Shinya Yamanaka
9. Made in Japan
10. Youth
11. Deadly Progress
12. John Matthew Ottoson
13. It's a No-brainer
14. The Genius in You
15. A Commitment to Honesty: Academic Integrity

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 Reading Compass (Sanshusha) ISBN: 9784384334494C1082

9. オフィスアワー

木曜日 4限目（総合教育棟 4階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とスピーチを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. The Castle of Otranto についての全体説明
2. The Castle of Otranto (1)
3. The Castle of Otranto (2)
4. The Castle of Otranto (3)
5. The Castle of Otranto (4)
6. The Castle of Otranto (5)
7. Review Test 1
8. The Castle of Otranto (6)
9. The Castle of Otranto (7)
10. The Castle of Otranto (8)
11. The Castle of Otranto (9)
12. The Castle of Otranto (10)
13. スピーチ (1)
14. スピーチ (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることが有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Castle of Otranto (Oxford Classics)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟 3階：S313）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

やや難解な英文を読解することで、英文読解力を高めるとともに、扱われた topic を通じて日々変容する世界への洞察を深める。また、十分な情報収集を行い、人を惹きつける情報提示の方法を模索する。

2. キーワード

環境問題、プレゼンテーション

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. orientation
2. The Wisdom of Crowds
3. The Language of Culture
4. The Happiest Day of Our Lives
5. You Are What You Eat
6. The Paperless Office?
7. Wonderbrain
8. In the Name of God
9. Presentation/Teaching/Pros and Cons
10. Presentation/Teaching/Pros and Cons
11. Presentation/Teaching/Pros and Cons
12. Presentation/Teaching/Pros and Cons
13. Presentation/Teaching/Pros and Cons
14. Presentation/Teaching/Pros and Cons
15. Presentation/Teaching/Pros and Cons
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや英字新聞、書籍などで調べること。
- ・プレゼンテーションのための十分な情報収集や効果的のプレゼンテーション方法の学習を行うこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Knowledge in the Making（成美堂）ISBN: 9784791910458

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前に掲示
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

本授業はABC NewsのDVD映像を通してアメリカの社会現象・社会問題を疑似体験し、コミュニケーションの第一歩であるリスニング力を高め、情報をキャッチする力を養うことが第一目標とする。さらに、そのスクリプトを読解し、内容を詳細に検討し解釈することで、各人が自身の考えを発展させ、物事を見る視点を広げてゆくことをさらなる目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解、考える力

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Royal Visit: Prince William in Japan
3. Unit 2 Free-Range Parenting
4. Unit 2 Free-Range Parenting
5. Unit 3 Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
6. Unit 3 Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
7. Unit 5 Operation Pizza
8. Unit 6 Big Powerball Jackpot Growing
9. Unit 8 Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
10. Unit 8 Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
11. Unit 9 Burger Wars: Billion Dollar Burger?
12. Unit 9 Burger Wars: Billion Dollar Burger?
13. Unit 13 Measles on the Move
14. Unit 13 Measles on the Move
15. より視野を広げる活動：まとめと考察

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。（初回の授業で配転の説明詳しくするので、必ず出席すること）

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。（携帯電話の辞書機能は使用禁止）
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。
- ・授業の進み方が変則的なので注意すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしておくこと。
- ・毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- ・復習方法としては「音読」、「付属DVDを使ったシャドーイング」を勧める。具体的にはDVDを見ながらニュースの英語が理解できるまで聞くこと。
- ・本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語でアメリカの社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：ABC World News 18（金星堂）ISBN: 9784764740143

9. オフィスアワー

授業時間前後
（連絡方法はオリエンテーションの時に伝えます）

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事を読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡しとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 8 More Japanese libraries lending e-books but challenges remain
3. Chapter 8 More Japanese (2)
4. Chapter 9 Japan, other countries, should beef up measures to prevent (1)
5. Chapter 9 Japan (2)
6. Chapter 10 Chinese tourists flocking back to Japan in droves after downturn in 2012 (1)
7. Chapter 10 Chinese tourists (2)
8. Chapter 11 Republicans win control of U.S. Senate (1)
9. Chapter 11 Republicans (2)
10. Chapter 12 "Dangerous drugs" toxicity like Russian Roulette (1)
11. Chapter 12 "Dangerous drugs" (2)
12. Chapter 13 Time capsule dating to 1795 included coins, newspapers (1)
13. Chapter 13 Time capsule (2)
14. Chapter 14 Arab allies pledge to fight Islamic State group
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- ・各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- ・小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書: News Gallery 2016 (Kaibunsha Publications)
ISBN: 978-4-87571-727-0 C1382

参考書: リーダース英和辞典 (研究社) の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

世界のニュースを通して効果的な 4 技能の学習を目指す。採り上げるトピックはあらゆる分野に渡り、身近なもので学生の興味、関心を引くものである。難しいと思われがちなニュース英語を読むことで語彙力、読解力を培い、英語力に自信をつけることを目標とする。

2. キーワード

語彙力、読解力、英字新聞に慣れ親しむ

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

01. オリエンテーション (授業の進め方、目標等の説明)
02. 全てはコミュニティカレッジのお陰
03. スマホ使いの「ゾンビ」出現で街中が大混乱
04. 連合王国のイギリス、分裂か・他
05. 韓国旅行の目的は買い物とアゴの整形
06. 「子供の頃の夢」の巨匠
07. 麻薬取引でアマゾン川辺境の植民地が一変
08. 3D プリンターで医療が変わる
09. 女性がテロリストになる時
10. 野球のインタビューで通訳されないこと
11. 裁判で「絵文字」は証拠物件に採用されるのか
12. 小麦派と米派
13. LED 照明がノーベル物理学賞に輝く
14. 難民の流入を食い止めるためブルガリアは壁を建設
15. 期末試験
16. 試験の説明等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験 (70%)

出席点、受講態度 (30%) により総合的に評価し、60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

予習: 次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習: 前回の Unit に関連するレポートを次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書 15 Selected Units of English through the News Media (Asahi Press) ISBN: 9784255155890

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようにすることを目標とする。内容については、現代社会のニーズに応ずるため、「ナウル島の問題」「良い教師とは」「デートの作法」「男性の脳、女性の脳」など社会生活に直接的に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜TOEICの問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

社会的話題、基本的な英語、4技能

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Island of Nauru
3. Impact of Good Teachers
4. Dating
5. The Different Layers of the Brain
6. Mirror Neurons
7. Sugar Addiction
8. これまでのまとめと表現活動
9. Active Listening
10. Nostalgia
11. Right Brain-Left Brain
12. Winning Friends and Influencing People
13. The Evolution of Marriage
14. Male and Female Brains
15. これまでのまとめと表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験 - 60%
 - (2) 授業での小テスト - 20%
 - (3) 授業での発表や提出物 - 20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。
- ・授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- ・毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書：Life Topics 3：Deeper Connections（南雲堂）ISBN: 978-4-523-17823-1 C0082（その他、適宜プリントを配布する。）

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 河野 世莉奈

1. 概要

本講義では、アメリカの歴史、人種問題、宗教、移民問題などをテーマにした英文を読み解くことで、読解力を高めると同時に、現代社会における問題に意識的になり、様々な問題を英語で考えられるようになることを目的とする。1回の授業につき1つのチャプターを読む。受講者には、各チャプターのテーマに沿ったプレゼンテーションを英語で行ってもらう予定である。プレゼンテーションを通して、テーマに対する意識を高め、自己表現力と他人の考えを取り入れつつ視野を広げる力を身につけてほしい。毎回の授業では、語彙力チェックのために、単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The American West: Myth and Reality
3. Race and Class in America
4. Interracial Love and Marriage
5. Religion: America's Double Vision
6. The Jury System
7. Hate Crime
8. Guns and Media
9. Heros: Legends and Lies
10. War and Media: The First Casualty
11. Sports and the American Way
12. Health and Diet
13. Failing Grades: Teachers in American Public Education
14. Rock Music and American Values
15. Hollywood and 9/11
16. 期末試験

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度30%、プレゼンテーション20%、小テスト10%、期末テスト40%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・予習：毎回の授業で次回の予習範囲を指示するので、しっかり準備をしてきてください。特に不明な単語は調べておくこと。単語テストにも備えてください。
- ・復習：間違えた問題を中心に、授業で学習したことを再確認する時間をとるようにしてください。
- ・プレゼンテーション：プレゼンテーション担当の学生は、スムーズに行えるように、原稿をしっかりと準備すること。必要であれば、自分の意見やテーマに沿った写真などを載せたレジュメを配布してもよい。

8. 教科書・参考書

教科書：Reading Contemporary America 15 Critical Views of Culture and Society 問題意識を持って読むアメリカ 15のトピック（松柏社）ISBN: 9784881986400

9. オフィスアワー

質問等は、講義終了後あるいは、メールで受け付けます。
E-mail: serinako29@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

英語で児童文学を精読することで、読解力や理論的思考力を養成しつつ、テキストを読んだ後に自分の感想や意見を英語で相手に伝える自己表現力を身に付けることを目標とする。各チャプター読後は、英語でサマリーを提出してもらうことで、要約し、自分の言葉で言い換えて英語で書くライティング能力の向上を図る。また、テキストでは文字化されない「行間」を読み取る感性を培うと同時に、物語ならではの英語のリズムやテンポ、ユーモアを味わい、楽しみながら英語と児童文学の世界を吸収していくことを目指す。

2. キーワード

異文化理解、論理的思考力、リーディング・スキル、プレゼンテーション

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Little Old Mrs. Pepperpot
3. Mrs. Pepperpot Goes to Buy Macaroni
4. Christmas Present
5. The Queen of Crows
6. Mrs. Pepperpot Goes to the Bazaar
7. Mrs. Pepperpot Looks After a Baby
8. Mrs. Pepperpot Goes to Pick Bilberries
9. Lookout
10. Mrs. Pepperpot and Hidden Treasures
11. Mrs. Pepperpot's Husband
12. Mrs. Pepperpot's Coffee Cup Divination
13. Mrs. Pepperpot Climbs a Pile of Bonfire
14. English Presentation (1)
15. English Presentation (2)

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、プレゼンテーション 10%、確認テスト・課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・予習として事前に次回の授業で扱う範囲の章を読んでくること。また授業のなかでペアになり互いに授業で読んだ箇所について内容確認の問題を出し合う活動を取り入れるので、毎回 3 つほど英語で質問を考えてくること。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- ・事前に指定された箇所のテーマについて考え、課題を期日までに提出すること。指定については授業の進捗状況に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書: Little Old Mrs. Pepperpot (Hutchinson, 2012)
ISBN: 978-0857540058

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後をお願いします。
e-mail: kyoko.gyan@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと日本の文化を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英日比較

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. British sports everywhere!
3. The Beatles forever.
4. From the cradle to the grave?
5. Great novelists.
6. History of the Royal Families.
7. Pound or Euro?
8. What is the Tube?
9. Two -party politics?
10. Art collections in Britain.
11. New house, old house.
12. Are British foods tasty?
13. Newspaper, TV or iPad?
14. Review
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (20%)、Class participation (20%)、Final test (60%)。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

1. 次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと
2. 不明な点は授業終了後に質問に来ると良い。個別にアドバイスをする。

8. 教科書・参考書

教科書: Cross-Cultural Views on Britain (南雲堂) ISBN: 9784523177531

9. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 池田 景子

1. 概要

Arthur Conan Doyle の Holmes シリーズのひとつ“The Red-Headed League”を読む。書かれている英語の構文を理解して、あらすじを追うだけに終わらず、小説特有の表現（比喩、アイロニーなど）にも注目することで、作品に対する理解を深め、異文化理解の一端を極めていく。

2. キーワード

異文化理解、読解、文学

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション (Doyle と Holmes について概説)
2. “The Red-Headed League” (1)
3. “The Red-Headed League” (2)
4. “The Red-Headed League” (3)
5. “The Red-Headed League” (4)
6. “The Red-Headed League” (5)
7. 中間テスト
8. “The Red-Headed League” (6)
9. “The Red-Headed League” (7)
10. “The Red-Headed League” (8)
11. “The Red-Headed League” (9)
12. “The Red-Headed League” (10)
13. “The Red-Headed League” (11)
14. “The Red-Headed League” (12)
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、毎回行う小テストを10パーセント以上含める。

上記の総合評価が60点以上になった者を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- ・予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・辞書を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないで、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ・ハンドアウトを配布する。
- ・参考書1（原書）：The Complete Sherlock Holmes : ISBN: 978-0-553-328257
- ・参考書2（日本語注釈つき）：The Adventures of Sherlock Holmes (英光社) ISBN: 978-4-87097-006-9

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、銃規制、人種、移民といった現代アメリカ社会を考える上で不可欠なトピックと扱った英文を読み解くことで、総合的な英語能力を養うと同時に、現代社会を取り巻く問題を英語で考える能力を養うことを目的とする。受講生には、各セッションのテーマに即したプレゼンテーションを行ってもらい、毎回のセッションで扱われているトピックに関する深い考察を行ってもらおうと同時に、論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為に単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1, The Popularity of the Japanese Language
3. The Job Search for College Seniors
4. Visiting the Birthplace of Jazz
5. What Makes Hollywood Films Wonderful?
6. Is Illegal Immigration a Problem?
7. Gun Control: Two Opposing Sides
8. Wall Street After 9/11
9. The Future of Auto Industry
10. Major League Dreams and Odds
11. F1 Racing Comes to America!
12. Environmental Champions Muir and Pinchot
13. Balancing Growth and Protectionism
14. The Leadership of Female CEO's
15. Today's Feminist Movement (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度30%、プレゼンテーション20%、小テスト10%、期末テスト40%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：『English Through Literature 文学で学ぶ英語リーディング』（研究社）ISBN:978-4-327-42185-4

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

Realise Britain (Kinseido) ISBN: 978-4-7647-3982-6

9. オフィスアワー

Mondays: 12:00 – 2:30pm.
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

For homework, respond to each of the Internet postings logically and meaningfully, using long and complex sentences to express your ideas. Also, check out any of the five websites and post your comment on any of the news articles or forums. Print out your comment and any replies to it.

8. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press) ISBN: 9784939130960

9. オフィスアワー

Monday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00
Tuesday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00
long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406, General Education Building)

英語 D I English D I

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・
虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・
前田 雅子・吉村 理一・田吹 香子・
雨森 未来・Denis Jonnes

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

さまざまなトピックについて議論する基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ 毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・ 教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ (付属図書館所蔵) を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしていくこと。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

英語 D II English D II

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・
虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・
前田 雅子・吉村 理一・田吹 香子・
雨森 未来・Denis Jonnes

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

さまざまなトピックについて議論する基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ 毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・ 教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ (付属図書館所蔵) を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしていくこと。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

選択英語Ⅰ Selective EnglishⅠ

対象学科(コース): 全学科

学年: 全年次 学期: 前期 単位区分: 選択 単位数: 1 単位

担当教員名 渡邊 浩明

1. 概要

This intensive course is both an orientation to TOEFL (Test of English as a Foreign Language), and a communicative course aimed at improving students' oral and interactive skills. The course is divided on various academic and communicative skills as they pertain to visiting and studying abroad. Students will be asked to discuss TOEFL questions (listening, grammar and reading) in groups, and to demonstrate their competency in interactive skills.

2. キーワード

Communication, interactive skills, discussion, reading, listening, grammar, TOEFL

3. 到達目標

- To learn practical communication in English by working in pairs.
- To learn academic skills measured by TOEFL and to improve them by completing training assignments.
- To improve interactive skills through activities in pairs and in groups.

4. 授業計画

1. Introduction, TOEFL style mini-test
2. Communicative activities in pairs 1/TOEFL questions and group discussion 1
3. Communicative activities in pairs 2/TOEFL questions and group discussion 2
4. Communicative activities in pairs 3/TOEFL questions and group discussion 3
5. Communicative activities in pairs 4/TOEFL questions and group discussion 4
6. Communicative activities in pairs 5/TOEFL questions and group discussion 5
7. Communicative activities in pairs 6/TOEFL questions and group discussion 6
8. Communicative activities in pairs 7/TOEFL questions and group discussion 7
9. Communicative activities in pairs 8/TOEFL questions and group discussion 8
10. Communicative activities in pairs 9/TOEFL questions and group discussion 9
11. Communicative activities in pairs 10/TOEFL questions and group discussion 10
12. Communicative activities in pairs 11/TOEFL questions and group discussion 11
13. Communicative activities in pairs 12/TOEFL questions and group discussion 12
14. TOEFL style mini-test
15. Final Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Quiz 30%, Active participation in class activities 30%, Daily English Training 20%, Final Exam 20%
Students must have at least 60% to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries will be needed.

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

Daily practice is required to complete Daily English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.

8. 教科書・参考書

Handouts will be provided as needed.

参考書:『TOEFL test によく出る英単語 2500』水本 篤 明日香出版社

Available at the library and Language Lounge 830.7/M-100

9. オフィスアワー

Instructor is available after each class session.

選択英語Ⅱ Selective EnglishⅡ

対象学科(コース): 全学科

学年: 全年次 学期: 後期 単位区分: 選択 単位数: 1 単位

担当教員名 渡邊 浩明

1. 概要

This course is both an orientation to TOEFL (Test of English as a Foreign Language), and a communicative course aimed at improving students' interactive skills. The course is focused on various academic skills as they pertain to studying abroad. Students will be asked to discuss TOEFL questions (listening, grammar and reading) in groups, and to demonstrate their competency in interactive skills.

2. キーワード

TOEFL, interactive skills, discussion, reading, listening, grammar

3. 到達目標

- To learn academic skills measured by TOEFL and to improve them by completing training assignments.
- To improve interactive skills through activities in groups.

4. 授業計画

1. Introduction, TOEFL style mini-test
2. TOEFL questions and group discussion 1
3. TOEFL questions and group discussion 2
4. TOEFL questions and group discussion 3
5. TOEFL questions and group discussion 4
6. TOEFL questions and group discussion 5
7. TOEFL questions and group discussion 6
8. TOEFL questions and group discussion 7
9. TOEFL questions and group discussion 8
10. TOEFL questions and group discussion 9
11. TOEFL questions and group discussion 10
12. TOEFL questions and group discussion 11
13. TOEFL questions and group discussion 12
14. TOEFL style mini-test
15. Final Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Quiz 30%, Active participation in class activities 30%, Weekly English Training 20%, Final Exam 20%
Students must have at least 60% to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries will be needed.

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

Daily practice is required to complete Weekly English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.

8. 教科書・参考書

Handouts will be provided as needed.

参考書:『TOEFL test によく出る英単語 2500』水本 篤 明日香出版社

Available at the library and Language Lounge 830.7/M-100

9. オフィスアワー

Wednesday 14:40 - 16:00

選択英語 I Selective English I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 全年次 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

This intensive course is both an orientation to student exchange programs, and a communicative course aimed at improving students' social, interactive, pragmatic and oral skills. The course is divided on various skills as they pertain to living abroad as well as better understanding foreign societies and cultures. In addition, students will be asked to discuss various aspects of Japanese culture in role-plays, and to evaluate their own performance.

2. キーワード

Exchange program, interactive skills, cultural literacy, discussion, critical thinking, Japanese culture, foreign cultures

3. 到達目標

- To learn how to initiate discussions with foreigners, and to respond to various kinds of situations and problems.
- To discuss aspects concerning Japanese culture in-depth.
- To improve one's self-assessment in communicative effectiveness

4. 授業計画

1. Introduction: Asking about travel plans/Talking about Japanese sports
2. Asking and answering questions at immigration/Japanese music
3. Giving directions/Japanese food
4. Reserving rooms/Japanese handicrafts
5. Talking about interests, sight-seeing/Japanese holidays
6. Selecting and renting a car/Japanese games
7. Meeting and talking with strangers/Japanese cities and places
8. Mid-term exam
9. Negotiating prices/relaxing in Japan
10. Inviting and socializing with friends/famous people in Japan
11. Reading a menu, ordering food/Japanese superstitions
12. Simulating a trip to Los Angeles/Japanese anime
13. Simulating a side-trip to San Francisco/Japanese Arts and Theater
14. Simulating a trip to ODU/Japanese customs
15. Final exam
16. Simulating a trip to Malaysia/Japanese Buildings and Gardens

5. 評価の方法・基準

Homework, class participation and exams will make up the credit of this class. Students must have at least 60 points to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries might be needed. It is important to participant and to prepare for various role-plays beforehand. As this course is intensive, class time will involve three periods per day.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Daily practice is required, and thus students should be prepared to handle homework for the next day.

8. 教科書・参考書

Encounters Abroad. Author: Michael Critchley ISBN: 9784523175391

9. オフィスアワー

Tuesday: 8 : 00 - 12 : 00

外国系科目（初修外国語）

初修外国語科目について

1. 目的

外国語は未知なる世界の扉を開ける鍵である。形は千種百様のように見えるが、開け方そのものは実に共通している部分が多い。要領を一つ心得ておけば応用が可能となる。また、不思議なことに、それが何らかの形で母語にフィードバックし、客観的に日本語を見つめ直すきっかけを与えてくれる。これまでの英語学習ですでにその経験をした学生は新しい扉へと進み、そうでない学生は今度こそとゼロからチャレンジしてもらおうことが初修外国語科目の目的である。アジアとヨーロッパからそれぞれ2カ国語ずつ用意しているが、もちろんこれで十分というわけではない。グローバル化が加速する中、何語が役に立つかを考えるよりもむしろ、何語にでも取り組む姿勢や心意気が大事だと思われる。真の国際人として時代の要請に応えていくための一步を、とにかくここから踏み出してくれるよう望む。

2. 内容

ドイツ語 I II III IV

中国語 I II III IV

フランス語 I II III IV

韓国語 I II III IV

3. 履修上の注意

I II は1年次の選択必修科目である。どの言語を履修するか、希望調査を基に決定する。なお、同じ言語でクラスが複数ある場合も、クラスの適正規模を考慮し、適宜に振り分ける。

III IV は2年次の選択語学科目である。1年次に履修した言語と英語D I / D II のどちらかを選択して2単位修得しなければならない。

ドイツ語 I German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介 I
- 第2回 飲み物を注文しよう
- 第3回 アルファベット、つづりと発音
- 第4回 挨拶 《国民性や常識の違いに注意》
- 第5回 自己紹介Ⅱ 《名前、呼び方、敬語？》
- 第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
- 第7回 つづき
- 第8回 持っている物、欲しい物について話す
- 第9回 買い物のロールプレイ
- 第10回 買い物のロールプレイ
- 第11回 自分の家族を紹介しよう
- 第13回 一緒に温泉へ行こう
- 第14回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み 20%+ロールプレイ 20%+期末テスト 60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみる。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース):機械知能・建設社会(人間科学科目)
 学年:1年次 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

大学では外国語として英語以外に、第2外国語を学習する。英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に寄与している。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統・文化に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直して欲しい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎(独検4級程度)を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことを主たる目的とする。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを考えなおす。さらに学生諸君には日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みて欲しい。

●授業の位置付け

ドイツ語を学ぶことによって、はっきりした効果が目に見える形ではないものの、強靱で幅広い思考力が培われる。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1回目:ドイツおよびドイツ語について
- 2回目:ドイツ語の発音
- 3回目:「おはようございます」ドイツ語のあいさつ、数詞
- 4回目:「タナカマコトと申します①」人称代名詞
- 5回目:「タナカマコトと申します②」動詞の現在人称変化、seinの人称変化
- 6回目:「何をしているの①」habenの人称変化
- 7回目:「何をしているの②」名詞の性、語順
- 8回目:「その帽子はいくらですか①」定冠詞と名詞の変化
- 9回目:「その帽子はいくらですか②」名詞の複数形
- 10回目:発音のテスト
- 11回目:「コーヒーが一杯欲しい①」不定冠詞
- 12回目:「コーヒーが一杯欲しい②」所有冠詞、否定冠詞
- 13回目:「こちらザビーネです①」不規則な動詞①
- 14回目:「こちらザビーネです②」名詞の3格、疑問代名詞
- 15回目:発音のテスト、前期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み(出席等)30% 発音のテスト20% 期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース):電気電子・総合システム(人間科学科目)
 学年:1年次 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介Ⅰ
- 第2回 飲み物を注文しよう
- 第3回 アルファベット、つづりと発音
- 第4回 挨拶 <<国民性や常識の違いに注意>>
- 第5回 自己紹介Ⅱ <<名前、呼び方、敬語?>>
- 第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
- 第7回 つづき
- 第8回 持っている物、欲しい物について話す
- 第9回 買い物のロールプレイ
- 第10回 買い物のロールプレイ
- 第11回 自分の家族を紹介しよう
- 第13回 一緒に温泉へ行こう
- 第14回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+ロールプレイ20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、アルファベット、つづりと発音（1）
- 第2回 アルファベット、つづりと発音（2）
- 第3回 おはようございます！
- 第4回 タナカ マコトと申します（1）
- 第5回 タナカ マコトと申します（2）
- 第6回 何をしているの（1）
- 第7回 何をしているの（2）
- 第8回 その帽子はいくらですか？（1）
- 第9回 その帽子はいくらですか？（2）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 コーヒーが一杯欲しい（1）
- 第12回 コーヒーが一杯欲しい（2）
- 第13回 こちらザビーネです（1）
- 第14回 こちらザビーネです（2）
- 第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30% + 発音テスト20% + 期末テスト50%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 カフェにて
- 第3回 迷子になったらどうしよう？ 道案内
- 第4回 自分の部屋を紹介しよう
- 第5回 ホテルでの宿泊Ⅰ
- 第6回 ホテルでの宿泊Ⅱ
- 第7回 電車の旅Ⅰ
- 第8回 電車の旅Ⅱ
- 第9回 ドイツ人の食生活
- 第10回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第11回 過去のことを話そうⅠ
- 第12回 過去のことを話そうⅡ
- 第13回 自分の生い立ち
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20% + ロールプレイ20% + 期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを視野に入れる。さらに日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

●授業の位置付け

「ドイツ語Ⅰ」に引き続きドイツ語の基礎（独検4級程度）を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1回目：「何を注文する？①」 不規則な動詞②
- 2回目：「何を注文する？②」 人称代名詞、非人称のes
- 3回目：「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？①」 前置詞
- 4回目：「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？②」 前置詞と定冠詞の融合形
- 5回目：「歩いてホテルまで行くことができますか？①」 話法の助動詞の人称変化
- 6回目：「歩いてホテルまで行くことができますか？②」 話法の助動詞の意味
- 7回目：「その列車は何時に発車しますか？①」 分離動詞
- 8回目：「その列車は何時に発車しますか？②」 命令形、時刻表現
- 9回目：「音楽に興味があります」 再帰代名詞、再帰動詞
- 10回目：発音のテスト
- 11回目：「とてもよかった！①」 動詞の3基本形
- 12回目：「とてもよかった！②」 過去人称変化
- 13回目：「おいしかった！①」 現在完了
- 14回目：「おいしかった！②」 分離動詞の現在完了
- 15回目：発音のテスト、後期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30% 発音のテスト20% 期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 カフェにて
- 第3回 迷子になったらどうしよう？ 道案内
- 第4回 自分の部屋を紹介しよう
- 第5回 ホテルでの宿泊 I
- 第6回 ホテルでの宿泊 II
- 第7回 電車の旅 I
- 第8回 電車の旅 II
- 第9回 ドイツ人の食生活
- 第10回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第11回 過去のことを話そう I
- 第12回 過去のことを話そう II
- 第13回 自分の生き立ち
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+ロールプレイ20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。ドイツ語技能検定試験（独検）4級合格を目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 何を注文する？（1）
 第2回 何を注文する？（2）
 第3回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（1）
 第4回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（2）
 第5回 歩いてホテルまで行くことができますか？（1）
 第6回 歩いてホテルまで行くことができますか？（2）
 第7回 その列車は何時に発車しますか（1）
 第8回 その列車は何時に発車しますか（2）
 第9回 発音テスト（1）
 第10回 音楽に興味があります
 第11回 とてもよかったです！（1）
 第12回 とてもよかったです！（2）
 第13回 おいしかったです！（1）
 第14回 おいしかったです！（2）
 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30% + 発音テスト20% + 期末テスト50%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅲ German III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、パウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4級程度）に引き続くドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 具体的な指示を聞き取ることができる。
- ② 平易なテキストを理解することができる。
- ③ 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④ 要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 学生の期待の確認 ドイツⅠ・Ⅱの復習
 第2回 挨拶<<国民性や常識の違いに注意>>
 自己紹介 “Ich komme aus Japan”
 第3回 発音 もっと上手になろう！
 第4回 家族の人や獣人の紹介
 “mein Bruder studiert Jura in Hamburg”
 第5回 仕事と余暇 ドイツ旅行に必要なフレーズ
 第6回 持っている物、欲しい物
 “ich habe leider kein Auto”
 第7回 つづき
 第8回 ドイツパン “in Deutschland gibt es 300 Brotsorten”
 第9回 つづき
 第10回 食生活 VTR “die Deutschen essen abends kalt”
 第11回 中間テスト
 第12回 レストランでの食事
 “Currywurst mit Pommes bitte”
 第13回 マナーと常識 この時にはどう言ったらいいの？
 第14回 ドイツの映画を見て、感想を書きましょう第15回 復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20% + 中間テスト20% + 期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行った会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅲ German III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作り出される。すなわちどの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4級程度）に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習、発音の復習、日常使う単語の確認
- 第2回 ドイツへ さまざまな人々 いろいろな文化（1）
- 第3回 ドイツへ さまざまな人々 いろいろな文化（2）
- 第4回 旅行大国ドイツ（1）
- 第5回 旅行大国ドイツ（2）
- 第6回 ドイツ生まれの車（1）
- 第7回 ドイツ生まれの車（2）
- 第8回 発音テスト（1）
- 第9回 パンとドイツ料理（1）
- 第10回 パンとドイツ料理（2）
- 第11回 ヨーロッパの付加価値税（1）
- 第12回 ヨーロッパの付加価値税（2）
- 第13回 ドイツ人は犬が好き（1）
- 第14回 ドイツ人は犬が好き（2）
- 第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

- ・授業には必ず辞書を持参すること。
- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCDを何度も聞いて復習すること。
 毎回の課題を着実にこなすこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅳ German IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4級程度）に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 ドイツのペット事情 “Auch Hunde fahren Zug”
- 第3回 助動詞を詳しく学ぼう
- 第4回 フリーマーケットでの買い物
“Ich liebe alte Sachen！”
- 第5回 ドイツ人のエコライフ “Ist das eine Pfandflasche?”
- 第6回 つづき
- 第7回 ドイツの教行く制度
“Machst du eine Lehre, oder willst du studieren?”
- 第8回 ドイツの大学
- 第9回 中間テスト
- 第10回 過去のこと話しましょう（過去形・現在完了形）
- 第11回 クリスマスカードを書きましょう
“Frohe Weihnachten”
- 第12回 自分の生い立ち
“Ich habe 3 Jahre in Wien gewohnt”
- 第13回 作文に挑戦
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+中間テスト20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行った会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅳ German IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作りだされる。すなわち、どの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

前期「ドイツ語Ⅲ」に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。学生職君には、授業の枠を超えて、積極的に直接ドイツの伝統・文化に触れて欲しい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 第1回 蚤の市（1）
- 第2回 蚤の市（2）
- 第3回 ドイツの大学（1）
- 第4回 ドイツの大学（2）
- 第5回 クリスマス（1）
- 第6回 クリスマス（2）
- 第7回 発音テスト（1）
- 第8回 原子力発電（1）
- 第9回 原子力発電（2）
- 第10回 ドイツの中の日本（1）
- 第11回 ドイツの中の日本（2）
- 第12回 ドイツ文を読む（1）
- 第13回 ドイツ文を読む（2）
- 第14回 ドイツ文を読む（3）
- 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

- ・ 授業には必ず辞書を持参すること。
- ・ 辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してくこと。
- ・ ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCDを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実にこなすこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

授業時間の前後

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. 中国語概説
- 2. 発音1 声調、単母音、複母音
- 3. 発音2 声母
- 4. 発音3 鼻音を伴う母音
- 5. 発音4 声調変化など
- 6. 発音のまとめ
- 7. 第1課 “是”を使った文、名前の言い方など
- 8. 第1課 復習
- 9. 第2課 “的”の使い方、疑問詞疑問文
- 10. 第2課 復習
- 11. 第3課 動詞述語文、連動文、副詞“也”
- 12. 第3課 復習
- 13. 第4課 形容詞述語文、助動詞“想”、反復疑問文
- 14. 第4課 復習
- 15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. 発音
- 2. 発音
- 3. 発音
- 4. 発音
- 5. 第1課
- 6. 第1課
- 7. テスト（発音）
- 8. 第2課
- 9. 第2課
- 10. 第3課
- 11. 第3課
- 12. 第4課
- 13. 第4課
- 14. テスト（1-4）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音1 声調、単母音、複母音
3. 発音2 声母
4. 発音3 鼻音を伴う母音
5. 発音4 声調変化など
6. 発音のまとめ
7. 第1課 “是”を使った文、名前の言い方など
8. 第1課 復習
9. 第2課 “的”の使い方、疑問詞疑問文
10. 第2課 復習
11. 第3課 動詞述語文、連動文、副詞“也”
12. 第3課 復習
13. 第4課 形容詞述語文、助動詞“想”、反復疑問文
14. 第4課 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1-4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席20%、音読10%、試験70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. 発音
- 2. 発音
- 3. 発音
- 4. 発音
- 5. 第1課
- 6. 第1課
- 7. テスト（発音）
- 8. 第2課
- 9. 第2課
- 10. 第3課
- 11. 第3課
- 12. 第4課
- 13. 第4課
- 14. テスト（1-4）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1. 復習
- 2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
- 3. 第5課 復習4の文、“把”構文
- 4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
- 5. 第6課 復習
- 6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
- 7. 第7課 復習
- 8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
- 9. 第8課 復習
- 10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
- 11. 第9課 復習
- 12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
- 13. 第10課 復習
- 14. まとめ1
- 15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は 2/3 以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴覚練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5-7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
3. 第5課 復習4の文、“把”構文
4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
5. 第6課 復習
6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
7. 第7課 復習
8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
9. 第8課 復習
10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
11. 第9課 復習
12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
13. 第10課 復習
14. まとめ1
15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5-7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5-7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅲ Chinese III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真壽美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはしい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. 第11課
2. 第11課
3. 第12課
4. 第12課
5. 第13課
6. 第13課
7. テスト（11-13）
8. 第14課
9. 第14課
10. 第15課
11. 第15課
12. 第16課
13. 第16課
14. テスト（14-16）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項

全講義回数の 2/3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：

- ①新出単語のピンインと日訳を記入しておく。
- ②本文とポイントを一読しておく。

復習：

- ①ポイントを再確認する。
- ②モデル会話を暗唱する。
- ③問題を解いてみる。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語Ⅲ Chinese III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの 4 つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. 第11課
2. 第11課
3. 第12課
4. 第12課
5. 第13課
6. 第13課
7. テスト（11-13）
8. 第14課
9. 第14課
10. 第15課
11. 第15課
12. 第16課
13. 第16課
14. テスト（14-16）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅳ Chinese IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真壽美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはしい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 1. 第1課
- 2. 第2課
- 3. 第3課
- 4. 第4課
- 5. 第5課
- 6. 復習
- 7. テスト（1-5）
- 8. 第6課
- 9. 第7課
- 10. 第8課
- 11. 第9課
- 12. 第10課
- 13. 復習
- 14. テスト（6-10）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項

全講義回数の 2/3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：

- ① 新出単語のピンインと日訳を記入しておく。
- ② 本文とポイントを一読しておく。

復習：①ポイントを再確認する。

②モデル会話を暗唱する。

③問題を解いてみる

8. 教科書・参考書

教科書：陳淑梅、劉光赤『しゃべっていいとも中国語 2 ステップアップ編』（朝日出版社）ISBN: 9784255452296

9. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語Ⅳ Chinese IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの 4 つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 1. 第1課
- 2. 第2課
- 3. 第3課
- 4. 第4課
- 5. 第5課
- 6. 復習
- 7. テスト（1-5）
- 8. 第6課
- 9. 第7課
- 10. 第8課
- 11. 第9課
- 12. 第10課
- 13. 復習
- 14. テスト（6-10）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：陳淑梅、劉光赤『しゃべっていいとも中国語 2 ステップアップ編』（朝日出版社）ISBN: 9784255452296

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

実践中国語Ⅰ Practical Chinese I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：3年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

実践中国語Ⅱ Practical Chinese II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：3年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学びます。テキストの1課に授業3回をあて、受講者の理解度を見ながらゆっくりとしたペースで進めます。

文法規則など初めは難しく感じられるフランス語も、特有の表現や発音方法を少しずつ理解していくことで、楽しくなってくるはずです。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 1－(1)
- 2) Leçon 1－(2)
- 3) Leçon 1－(3)
- 4) Leçon 2－(1)
- 5) Leçon 2－(2)
- 6) Leçon 2－(3)
- 7) Leçon 3－(1)
- 8) Leçon 3－(2)
- 9) Leçon 3－(3)
- 10) Leçon 4－(1)
- 11) Leçon 4－(2)
- 12) Leçon 4－(3)
- 13) Leçon 5－(1)
- 14) Leçon 5－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学びます。テキストの1課に授業3回をあて、受講者の理解度を見ながらゆっくりとしたペースで進めます。

文法規則など初めは難しく感じられるフランス語も、特有の表現や発音方法を少しずつ理解していくことで、楽しくなってくるはずです。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 1－(1)
- 2) Leçon 1－(2)
- 3) Leçon 1－(3)
- 4) Leçon 2－(1)
- 5) Leçon 2－(2)
- 6) Leçon 2－(3)
- 7) Leçon 3－(1)
- 8) Leçon 3－(2)
- 9) Leçon 3－(3)
- 10) Leçon 4－(1)
- 11) Leçon 4－(2)
- 12) Leçon 4－(3)
- 13) Leçon 5－(1)
- 14) Leçon 5－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学びます。毎回の授業では、文法解説の後、ペアでその日の会話表現をロールプレイングします。

テキストの1課に授業3回をあて、受講者の理解度を見ながらゆっくりとしたペースで進めます。初めは難しく感じられるフランス語も、特有の表現や発音方法を少しずつ理解していくことで、楽しくなってくるはずです。

また、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①アルファベットを正確に発音することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 1－(1)
- 2) Leçon 1－(2)
- 3) Leçon 1－(3)
- 4) Leçon 2－(1)
- 5) Leçon 2－(2)
- 6) Leçon 2－(3)
- 7) Leçon 3－(1)
- 8) Leçon 3－(2)
- 9) Leçon 3－(3)
- 10) Leçon 4－(1)
- 11) Leçon 4－(2)
- 12) Leçon 4－(3)
- 13) Leçon 5－(1)
- 14) Leçon 5－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点（30点）、定期試験（70点）により評価
 （状況に応じて中間テストを実施。その場合中間（30点）、期末（40点）の配分となります）

6. 履修上の注意事項

授業内で単語を辞書で調べたりすることがあるため、フランス語の辞書を用意しておくこと（出来るだけ紙媒体のもの。もしくは電子辞書）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形に加えて、過去や未来など、より広範囲の時制について学びます。毎回の授業では、文法解説の後に発音練習をしっかりと行い、ペアで楽しくロールプレイングします。

授業は受講者の理解度をみながら、ゆっくりとしたペースで進めます。テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 6－(1)
- 2) Leçon 6－(2)
- 3) Leçon 6－(3)
- 4) Leçon 7－(1)
- 5) Leçon 7－(2)
- 6) Leçon 7－(3)
- 7) Leçon 8－(1)
- 8) Leçon 8－(2)
- 9) Leçon 8－(3)
- 10) Leçon 9－(1)
- 11) Leçon 9－(2)
- 12) Leçon 9－(3)
- 13) Leçon 10－(1)
- 14) Leçon 10－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点（30点）、定期試験（70点）により評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形に加えて、過去や未来など、より広範囲の時制について学びます。毎回の授業では、文法解説の後に発音練習をしっかりと行い、ペアで楽しくロールプレイングします。

授業は受講者の理解度をみながら、ゆっくりとしたペースで進めます。テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 6－(1)
- 2) Leçon 6－(2)
- 3) Leçon 6－(3)
- 4) Leçon 7－(1)
- 5) Leçon 7－(2)
- 6) Leçon 7－(3)
- 7) Leçon 8－(1)
- 8) Leçon 8－(2)
- 9) Leçon 8－(3)
- 10) Leçon 9－(1)
- 11) Leçon 9－(2)
- 12) Leçon 9－(3)
- 13) Leçon 10－(1)
- 14) Leçon 10－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形に加えて、過去や未来など、より広範囲の時制について学びます。毎回の授業では、文法解説の後に発音練習をしっかりと行い、ペアで楽しくロールプレイングします。

授業は受講者の理解度をみながら、ゆっくりとしたペースで進めます。テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

秋のフランス語検定試験の受験希望者にはサポートを行います。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 6－(1)
- 2) Leçon 6－(2)
- 3) Leçon 6－(3)
- 4) Leçon 7－(1)
- 5) Leçon 7－(2)
- 6) Leçon 7－(3)
- 7) Leçon 8－(1)
- 8) Leçon 8－(2)
- 9) Leçon 8－(3)
- 10) Leçon 9－(1)
- 11) Leçon 9－(2)
- 12) Leçon 9－(3)
- 13) Leçon 10－(1)
- 14) Leçon 10－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価

(状況に応じて中間テストを実施。その場合中間(30点)、期末(40点)の配分となります)

6. 履修上の注意事項

授業内で単語を辞書で調べたりすることがあるため、フランス語の辞書を用意しておくこと（出来るだけ紙媒体のもの。もしくは電子辞書）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-3

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅲ French III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 甲斐 春香

1. 概要

フランス語の中級文法と会話。文法復習を取り入れながら、自分の身近なことについて、フランス語で表現する方法を学びます。毎回の授業では、文法学習の後に、その日の内容をペアでロールプレイングする時間を多めにとります。聞き取りや仏作文の練習も行います。

テキストの1課に授業3回をあて、ゆっくりとしたペースで進めます。新しく学ぶ文法事項も加わり、覚える内容も増えてきますが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期授業内容の説明など
- 2) Leçon 11- (1)
- 3) Leçon 11- (2)
- 4) Leçon 11- (3)
- 5) Leçon 12- (1)
- 6) Leçon 12- (2)
- 7) Leçon 12- (3)
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) Leçon 13- (1)
- 10) Leçon 13- (2)
- 11) Leçon 13- (3)
- 12) Leçon 14- (1)
- 13) Leçon 14- (2)
- 14) Leçon 14- (3)
- 15) 前期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅲ French III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古野 千恵

1. 概要

フランス語の中級文法と会話。文法復習を取り入れながら、自分の身近なことについて、フランス語で表現する方法を学びます。毎回の授業では、文法学習の後に、その日の内容をペアでロールプレイングする時間を多めにとります。聞き取りや仏作文の練習も行います。

テキストの1課に授業3回をあて、ゆっくりとしたペースで進めます。新しく学ぶ文法事項も加わり、覚える内容も増えてきますが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期授業内容の説明など
- 2) Leçon 11- (1)
- 3) Leçon 11- (2)
- 4) Leçon 11- (3)
- 5) Leçon 12- (1)
- 6) Leçon 12- (2)
- 7) Leçon 12- (3)
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) Leçon 13- (1)
- 10) Leçon 13- (2)
- 11) Leçon 13- (3)
- 12) Leçon 14- (1)
- 13) Leçon 14- (2)
- 14) Leçon 14- (3)
- 15) 前期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅳ French IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 甲斐 春香

1. 概要

フランス語Ⅲの続きとして、中級レベルのフランス語を学びます。文法復習を取り入れながら、会話の練習や、簡単なテキスト読解も行います。

会話の練習では、実際の旅行や生活を想定して楽しくロールプレイングします。テキスト読解では、文法を確認しながら、少しずつゆっくりと読む練習をします。

後期の半ばには、秋季フランス語検定試験の対策のための期間を設けます。聞き取りや仏作文の練習も行います。

そのほか、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 1) インTRODクシヨン—後期授業内容の説明
- 2) 会話の練習—旅行編（1）
- 3) 会話の練習—旅行編（2）
- 4) フランス語検定試験対策（1）
- 5) フランス語検定試験対策（2）
- 6) フランス語検定試験対策（3）
- 7) フランス語検定試験対策（4）
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) テキスト読解（1）
- 10) テキスト読解（2）
- 11) テキスト読解（3）
- 12) テキスト読解（4）
- 13) 会話の練習—生活編（1）
- 14) 会話の練習—生活編（2）
- 15) 後期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅳ French IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古野 千恵

1. 概要

フランス語Ⅲの続きとして、中級レベルのフランス語を学びます。文法復習を取り入れながら、会話の練習や、簡単なテキスト読解も行います。

会話の練習では、実際の旅行や生活を想定して楽しくロールプレイングします。テキスト読解では、文法を確認しながら、少しずつゆっくりと読む練習をします。

後期の半ばには、秋季フランス語検定試験の対策のための期間を設けます。聞き取りや仏作文の練習も行います。

そのほか、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 1) インTRODクシヨン—後期授業内容の説明
- 2) 会話の練習—旅行編（1）
- 3) 会話の練習—旅行編（2）
- 4) フランス語検定試験対策（1）
- 5) フランス語検定試験対策（2）
- 6) フランス語検定試験対策（3）
- 7) フランス語検定試験対策（4）
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) テキスト読解（1）
- 10) テキスト読解（2）
- 11) テキスト読解（3）
- 12) テキスト読解（4）
- 13) 会話の練習—生活編（1）
- 14) 会話の練習—生活編（2）
- 15) 後期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
2. ハングル文字（基本母音）
3. ハングル文字（基本子音）
4. ハングル文字（激音、濃音）
5. ハングル文字（二重母音）
6. ハングル文字（パッチム）
7. ハングル文字（2文字パッチム）
8. まとめ
9. 発音（有声音化、連音化など）
10. 発音（激音化、濃音化など）
11. 第1課（自己紹介）
12. 第2課（指示・疑問文）
13. 第3課（存在文）
14. 第4課（否定文）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
2. ハングル文字（基本母音）
3. ハングル文字（基本子音）
4. ハングル文字（激音、濃音）
5. ハングル文字（二重母音）
6. ハングル文字（パッチム）
7. ハングル文字（2文字パッチム）
8. まとめ
9. 発音（有声音化、連音化など）
10. 発音（激音化、濃音化など）
11. 第1課（自己紹介）
12. 第2課（指示・疑問文）
13. 第3課（存在文）
14. 第4課（否定文）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
- 2. ハングル文字（基本母音）
- 3. ハングル文字（基本子音）
- 4. ハングル文字（激音、濃音）
- 5. ハングル文字（二重母音）
- 6. ハングル文字（パッチム）
- 7. ハングル文字（2文字パッチム）
- 8. まとめ
- 9. 発音（有声音化、連音化など）
- 10. 発音（激音化、濃音化など）
- 11. 第1課（自己紹介）
- 12. 第2課（指示・疑問文）
- 13. 第3課（存在文）
- 14. 第4課（否定文）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1. 第5課（漢数字）
- 2. 第6課（用言の活用）
- 3. 第7課（固有数字）
- 4. 第8課（時刻、時間と曜日）
- 5. 第9課（過去形）
- 6. まとめ
- 7. 第10課（目的、羅列、提案）
- 8. 第11課（依頼、意志、接続詞）
- 9. 第12課（感嘆、希望、比較）
- 10. 第13課（可能、不可能）
- 11. 第14課（命令、勧告）
- 12. 第15課（推量、原因、義務）
- 13. まとめ
- 14. 実践会話（1）
- 15. 実践会話（2）

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課（漢数字）
2. 第6課（用言の活用）
3. 第7課（固有数字）
4. 第8課（時刻、時間と曜日）
5. 第9課（過去形）
6. まとめ
7. 第10課（目的、羅列、提案）
8. 第11課（依頼、意志、接続詞）
9. 第12課（感嘆、希望、比較）
10. 第13課（可能、不可能）
11. 第14課（命令、勧告）
12. 第15課（推量、原因、義務）
13. まとめ
14. 実践会話（1）
15. 実践会話（2）

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課（漢数字）
2. 第6課（用言の活用）
3. 第7課（固有数字）
4. 第8課（時刻、時間と曜日）
5. 第9課（過去形）
6. まとめ
7. 第10課（目的、羅列、提案）
8. 第11課（依頼、意志、接続詞）
9. 第12課（感嘆、希望、比較）
10. 第13課（可能、不可能）
11. 第14課（命令、勧告）
12. 第15課（推量、原因、義務）
13. まとめ
14. 実践会話（1）
15. 実践会話（2）

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅲ Korean Ⅲ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. レベルテスト
- 2. 基本文型と会話（1）可能、不可能、接続詞
- 3. 基本文型と会話（2）進行、義務
- 4. 基本文型と会話（3）間違いやすい助詞
- 5. 基本文型と会話（4）羅列、理由、原因
- 7. 基本文型と会話（5）副詞形、決定
- 8. まとめ
- 9. 基本文型と会話（6）逆説、方向
- 10. 基本文型と会話（7）尊敬
- 11. 基本文型と会話（8）同意、推量
- 12. 基本文型と会話（9）連体形その1
- 13. 基本文型と会話（10）逆説、比較、仮定
- 14. 基本文型と会話（11）連体形その2
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅲ Korean Ⅲ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 井田 茂雄

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. レベルテスト
- 2. 基本文型と会話（1）可能、不可能、接続詞
- 3. 基本文型と会話（2）進行、義務
- 4. 基本文型と会話（3）間違いやすい助詞
- 5. 基本文型と会話（4）羅列、理由、原因
- 7. 基本文型と会話（5）副詞形、決定
- 8. まとめ
- 9. 基本文型と会話（6）逆説、方向
- 10. 基本文型と会話（7）尊敬
- 11. 基本文型と会話（8）同意、推量
- 12. 基本文型と会話（9）連体形その1
- 13. 基本文型と会話（10）逆説、比較、仮定
- 14. 基本文型と会話（11）連体形その2
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

授業内にて指示

韓国語Ⅳ Korean IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。まず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 基本文型と会話（1）変則活用その1
2. 基本文型と会話（2）状況、練習問題
3. 基本文型と会話（3）変則活用その2
4. 基本文型と会話（4）経験、命令
5. 基本文型と会話（5）変則活用その3
6. 基本文型と会話（6）過去の経験、状態
7. まとめ
8. 基本文型と会話（7）変則活用その4
9. 基本文型と会話（8）推測
10. 基本文型と会話（9）予定、選択
11. 基本文型と会話（10）理由、原因
12. 基本文型と会話（11）変則活用その5
13. 基本文型と会話（11）変則活用その6
14. 基本文型と会話（12）継続
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅳ Korean IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 井田 茂雄

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。まず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 基本文型と会話（1）変則活用その1
2. 基本文型と会話（2）状況、練習問題
3. 基本文型と会話（3）変則活用その2
4. 基本文型と会話（4）経験、命令
5. 基本文型と会話（5）変則活用その3
6. 基本文型と会話（6）過去の経験、状態
7. まとめ
8. 基本文型と会話（7）変則活用その4
9. 基本文型と会話（8）推測
10. 基本文型と会話（9）予定、選択
11. 基本文型と会話（10）理由、原因
12. 基本文型と会話（11）変則活用その5
13. 基本文型と会話（11）変則活用その6
14. 基本文型と会話（12）継続
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

授業内にて指示